

(別紙)

自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 玄関先に大きく掲げてある。理念の実践は、地域の中に浸透していることで、実践できていると考えている。 | 理念はある。パンフレット等への記載や事業所内に掲示されていて、役員・管理者・職員は理念を共有し、サービスの実践につなげている。月一回の社内研修では理念の確認をして、継続的な心がけをしている。 | ボランティアなど事業所に係わる人々に対して、事業所の目指すことは伝えているが、理念や方針として書面で地域の人やボランティアにも伝え共有することで、地域密着型の役割がより明確になると感じる。 |
| 2 | (2) | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 家族会や地域推進会議(2か月に1回)を行うことにより、十分とは、言えないけれど、交流は出来ていると実感している。また近くの小学校との交流会は継続している。 | 事業所の目の前にある小学校とは、毎年2年生と交流している。子どもを通じてその親や先生との交流も深まり始め、毎年行う「ちとせ祭り」は地域行事の一つになり始めている。またご近所の方は気軽に寄ってくれる。 | 家族のみに配布している「ちとせ便り」には地域との交流の様子も記載されているので、地域にも配布して、より付き合いを深めていただきたい。また、緊急時の協力体制の強化を期待する。 |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 毎年行う施設のまつりには地域の人たちを招き、交流を図り、理解を得ている。 | | |
| 4 | (3) | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議では、利用者中心の話し合いになり、日々の生活そのものを、直接見ていただいている。 | 定期的に開催されている「地域推進会議」のメンバーは近隣地区住民や地区役員で構成されていて、利用者やサービスに関する内容の他に、地域の中での事業所の在り方についても検討されている。 | 会議の様子など内容を記録に残して、職員とも共有し、サービスや運営に反映していただきたい。また、欠席者には記録や資料を提示することを期待したい。会議ではアイデアを求めたり相談して、反映した結果の報告も継続的に実践していただきたい。 |
| 5 | (4) | 市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 施設内で対応しきれないことは、市町村(包括支援センター)に協力を依頼している。 | 包括支援センターに相談して協力も得ている。保健指導員の年間行事として協力も得ており、開所後9年の実績と実践により双方向の協力関係ができています。 | |
| 6 | (5) | 身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 基本的には、拘束はしない、しかし状況に応じてはせざるを得ない状況も考えて、指針マニュアルを作成している。 | 重度の利用者が多いが、統一した職員の対応により、拘束しないケアを徹底している。緊急時や利用者の状態が変わったときなどは毎日開催しているミニカンファレンスで直ちに話し合い、その結果を実践している。 | 実践したあとの振り返りとその後の反映ができると、職員間でのより統一した実践につながり、質の向上になると考えます。 |
| 7 | | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | マニュアルは作成しています。認知症対応施設としての、教えは浸透しているので虐待はないと確信している。 | | |

グループホームさわやか千歳

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 当施設には3人ほど生活保護の対象者がいます。この方の金銭管理は公的な方法として、社協の金銭管理が入っています。また権利擁護の研修も学んでいる。 | | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約書や重要事項の説明書等十分説明はしているつもりです。理解出来ているかは疑問です。またそのことについての質問や疑問はほとんどないようです。 | | |
| 10 | (6) | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 地域性もあり家族や地域からの訴えや評価が少なく其のことが課題でもあるとかがえている。 | 家族会や運営推進会議に積極的に参加していただき、意見や要望を運営に反映させている。家族の面会時には利用者と同様に喜ぶ職員の姿に家族は話しやすさを感じて会話が弾んでいる。 | 家族の意見は丁寧に聞き、意見を反映させている。家族にアイデアをいただくような声掛けをしていただいても良い場合があると思われます。 |
| 11 | (7) | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回のカンファレンス時に運営状態や、経営状態の説明を行っている。 | 変則勤務であるがリーダーが、意見や提案を集約している。また、職員は直接管理者に提案や意見はし易く、勤務中でも意見交換をしている。月1回の職員会議でも意見を聞き、随時個別面談も行い、運営に反映させる努力をしている。 | 提案や意見を反映して運営内容に変更が生じた場合は必要な書面の差し替えをすることを期待する。 |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 平成25年度職務規定を改定し、有給休暇や給与面等の改善を行い現在実施中である。又有資格者に対しては、資格に応じた手当支給も行っている。積極的に資格取得へと求めている。 | | |
| 13 | | 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修制度を利用し、研修の義務化と、希望研修を募っている。研修日は勤務扱いとする等の工夫は行っている。 | | |
| 14 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 各機関で行う研究会や研修会には毎月参加し同業者と良い交流をさせてもらっている。スタッフの参加も義務付けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用初日はかなりの時間を要し説明行い本人ならびに家族とのコミュニケーションを取る。各担当者を決めてかかわっている。本人の意に添うよう努めている。 | | |
| 16 | | 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 十分な説明と同意に心がけている。また家族会、行事等には、家族に出席を呼び掛けている。 | | |
| 17 | | 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 個々の方が皆違うように個々の方の対応も違いが必要か模索しながら対応してきた。またこれからも行っていくつもりである。 | | |
| 18 | | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 設立10年目を迎える。試行錯誤を繰り返して行ってきた。どんな小さな声も聞く姿勢を持って来た。関わりは日々違うかもしれないが理念に添いたい。 | | |
| 19 | | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | どこで生活していても家族の一員、その家族、親戚とは切っても切り離せない絆がある、家族の方の思いはなおの事、家族もこの入居者と同じに大切だと考えている。 | | |
| 20 | (8) | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族を通じて、いつでも、会いに来て頂ける様にと依頼している。また行きたい所等は、出来だけ配慮し思いに添うよう対応している。 | 暮らしの中で気付いた事や家族の声などはオリジナルの専用ノートに記載し、月1回のカンファレンスや介護計画作成やモニタリングなどに反映して、支援している。 | |
| 21 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 個々の利用者は長い人生違う環境で暮らしてこれ、接点を見つけにくい部分が多いが、共に暮らしていることで、疑似家族の様な関係ができています。 | | |

グループホームさわやか千歳

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去した後は接点が少なく難しい。久しい家族に会うこともあり、そのような時はいつの間にか入居しているころに戻って話が弾んでしまう。しかしその後のフォローまではいたっていない。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとり違うケアは基本的です。プラン作成も個々の状況に沿って立てている。必要時にはカンファレンスを行い、状況を見ながらモニタリングを行う。必要に応じて再作成、継続の判断を行う。 | 情報共有のためのオリジナルノートをつくり、日々の気づきなどを細かく記載し、毎日開催するミニカンファレンスで話し合っている。 | |
| 24 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 2年3年と一緒に生活していることで、その人の生活歴や暮らし方がよくわかる。短期記憶については思い出せないが、楽しかった頃のことは良く話してくれる。 | | |
| 25 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日必ず一回はバイタルサインを行い体調管理は出来ている。協力医も月2回程、往診に来てくれる。また個々の生活パターンの把握にも努めている。 | | |
| 26 | (10) | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 計画作成担当者が中心となって計画を行い、状況に応じてカンファレンスを行う。また定期的にモニタリングも行いケアプランに沿ったケアになるよう努力している。 | 職員が定期的にモニタリングを行い、家族の意見も反映させ、状態に沿った介護計画を作成している。職員全員が参加している。 | 家族に配布している「ちとせ便り」に利用者個々の様子や表情も伝えることで、家族も忘れていたような本人の情報などを反映できる可能性があると思います。 |
| 27 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個々のファイルがあり、毎日状況の記録は行っている。昼間と夜間の記録は色を変えて記載している。入居者に対して介護者がどのように援助しているか状況に応じては、出来るだけ細かな記載方法を取るよう促している。 | | |
| 28 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 毎日一人ひとりの状況には変化はある、出来るだけ個々の対応になるよう心掛けている。 | | |

グループホームさわやか千歳

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の会や集まり等に出席することで入居者の理解が増えると考えている。機会があればなるべく、でかけようとしている。くなるので、又施設に足を運んでもらえるように声をかけさせていただいている。 | | |
| 30 | (11) | かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医と契約していることで2週間に1回の往診があり、家族との時間も取れている。そのうえで、必要な説明も行っている。 | かかりつけ医と契約があり月3～4回の往診があり、担当医師は利用者や家族の意向に対応する姿勢があり、連携がとれている。医師の往診以外にも看護師のみが訪問してくれることもあり常に状態の把握や情報の共有、相談ができています。 | 受診や往診の支援に家族は安心していている。様子を家族に丁寧に知らせているが、記録が残されていない場合がある。ケース記録などに反映できる記録の仕組み作りを期待する。 |
| 31 | | 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 常勤の看護職員がいることで日常の体調管理はできている。協力医やかかりつけ医との情報交換も行っている。 | | |
| 32 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 協力医が変わったが、協力医との間では意思疎通が出来ている。定期的な往診等スムーズに行われ、快く引き受けて下さる。 | | |
| 33 | (12) | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化や終末期に向けた取り組みとして、入居当初より、終末期の意向を聞いて、どなたからも、同意書を頂いている。医療体制加算を行っていることから、契約書と同等の意味を持っている。当施設においても6人の看取りを行ってきた。 | 事業所には看護師がいて、些細な状態の変化も重要と考えて家族に伝えて情報の共有をしている。協力病院・かかりつけ医・所長・家族・職員が参加している話し合いは記録があり、状態の変化の履歴が確認でき、家族の迷いや思いを関係者が受け入れる体制ができていて、穏やかな終末期を迎えている。 | |
| 34 | | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 利用者の急変時にはのマニュアルを作成し職員に指導し発生時に備えている。 | | |
| 35 | (13) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練も定期的に行っている。平成23年6月全館スプリンクラー設置、消防への通報装置の設置も行った。 | 避難訓練は年2回行っている。今年度の2回目はこれから実施の予定。毎年地域での避難訓練を消防団と連携して行っている。夜間想定避難訓練や火災時の避難訓練のみではなく地震時の訓練も実施していて、マニュアルも種別ごと整備されている。他様々なイメージトレーニングもチャレンジしている。 | 重度の利用者の避難を、地域の人に協力を得られるよう検討する際に、利用者の情報提供の工夫を期待したい。非常口は施錠せず、非常口付近に物品を置かず動線の確保を日常的に心がけていただきたい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人の人としての尊厳を柱に、言葉掛け、個々にあった対応を日々心がけている。ユニット型個室でもあることが重度の方には対応しきれないことがある。 | 毎月1回開催している社内研修やカンファレンスでは、必ず尊厳とプライバシーについて研修をしている。 | |
| 37 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | どんな些細なことでも行う前には必ず本人に説明をし、同意を得ることを職員に実践指導している。出来る限り本人の意思でできる環境作りを心掛けている。 | | |
| 38 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 介護する職員のペースになりから行為や支援を利用者本位になるような支援にと努力している。 | | |
| 39 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入浴と更衣は日常的に、洋服も本人に聞きながら選んでいる。隔月に1回理容師さんが見え髪をカットしてくれる。本人の好みを重視しているが全員には無理がありお任せしている。 | | |
| 40 | (15) | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 介護スタッフが、バラエティーに富んだメニューを作り利用者と一緒にを前提に食事作りやかたづけを楽しんでいる。週1回程のお楽しみメニューとして利用者希望や季節感のあるメニューづくりと、アンケート等の嗜好調査にも取り組んでいる。 | 食事内容についての検討会を開催している。近所からもらった新鮮な季節の野菜やくだものを使ったメニューで、利用者の状態にあった楽しみ方で支援している。 | 嗜好や食事に関するアンケートが定期的実施されていますが、結果の反映や報告の仕方などの工夫に期待する。 |
| 41 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量や水分量は必要時に応じてチェックし、朝のカンファレンスでスタッフが把握するよう指示している。 | | |
| 42 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後は必ず義歯と口腔内の洗浄は行う。また夜間は口腔ケア後、義歯は洗浄液の中に漬けておくようにしている。 | | |

グループホームさわやか千歳

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 昼間はおむつの使用は出来るだけ行なわず、時間ごと一人ひとりにあったトイレ誘導を行っている。 | 重度化している利用者が多いので、様子を見て誘導している。状態によっては1～2時間おきに誘導している。 | |
| 44 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分チェックと下剤服用は不可欠となっている。状況に合わせて協力医や掛りつけ医の指示のもと内服している。飲食物には、牛乳や繊維物が多い食事を勧め、バランスを考えている。また歩行等促し支援している。 | | |
| 45 | (17) | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴は一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴している。時には早朝だったり、夜間だったりすることもある。重度化に伴い、個々の状態を見ながらシャワーストレッチャーも使用している。 | 時間や回数は決めず、本人の希望する時間で入浴していて、夜間や早朝の入浴にも応じている。重度化している利用者にはストレッチャーを使用している。 | |
| 46 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 昼食後の昼寝は個々の入居者さんの意思に任せているが出来るだけ短い時間での午睡になるように心がけている。状況に応じて時間をみはからい起床をうながしている。 | | |
| 47 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 入居者さんは、ほぼ全員服薬していることから服薬管理は不可欠と考えている。しっかり飲み込むまで確認している。またその後の状態の観察も行っている。 | | |
| 48 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 毎日の生活の中で、中軽度にかかわらず、役割が決まっている。重度の方もスタッフと一緒にやることで出来ることもある。また近くのお店に買い物に出かけ、気分転換をされている。 | | |
| 49 | (18) | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 一部の軽度の方は定期的に外出されている。他の方がたも、行事に沿って、外出されている。また家族に依頼して外出されることもある。 | 個別の買い物や外食は希望があれば個々に応じている。地域の果樹園の協力があり果物狩り・小学校の運動会や音楽会などの参加も多くある。ボランティアの協力もあり行事参加が実現している。 | |

グループホームさわやか千歳

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 軽症の金銭管理が可能な対象者には外出時に限らずいくらか渡している。自己管理ができない方には、欲しいもの等家族に確認しながら施設サイトで購入する。購入した物は月末領収書とともに、家族に渡し確認印を頂いている。 | | |
| 51 | | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話、手紙等の理解可能で希望の方がたには手配したり、依頼された時は代筆も行う。また電話の取次も行う。 | | |
| 52 | (19) | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 全体的に狭い空間なので心地よさは期待できない。でもできる限り心地よく生活出来るように心がけている。 | 家庭的な雰囲気、温泉を利用した暖房で冬は全館が程よく暖かく、落ち着ける生活感のある空間である。2階の広いスペースはボランティアによる行事などに活用され、のびのびと行事に参加して楽しめる。 | |
| 53 | | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 食堂においては個々の座るテーブルの位置が決まっており、テリトリーの侵害がないような配慮はしている。本人の好きな場所の配慮も行っている。 | | |
| 54 | (20) | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 各個室は本人にとって一番過ごしやすい落ち着いた場所だと考えている。入居当時になじみのものを持参した大切な物の配慮も考えている。 | 居室は明るく、冬は陽当たりがよく暖かい。利用者が大切にしているものが置かれている。また、趣味や特技が活かされおり、家族も心地よく過ごせる。 | 利用者の状態(かなりの重度化)に応じて必要がある場合は、家族や本人の同意を得て利用者が同室となる場合があるが、書面上にその記録がないので、プライバシーに配慮してその確保を常に意識していることを徹底していただきたい。 |
| 55 | | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 2/3以上の方は自力での生活能力が乏しいので難しい部分が多い。それでも出来ること、わかることを見極めながら、時間がかかっても行うように支援している。 | | |